

**各種団体との意見交換会
(グループヒアリング)
実施報告書**



株式会社 エックス都市研究所
Environmental & Urban Planning, Research and Consulting

I. 目的

第7次八戸市総合計画策定のための基礎資料とするため、特定の分野に関する市民意見を深く把握するために実施する。

II. 意見交換のテーマ

1. 情報技術の進展 1ページ
2. 持続可能な市街地形成 3ページ
3. 地域コミュニティの振興 5ページ
4. スポーツによる活性化 7ページ
5. 国際化への対応 9ページ
6. 女性活躍の推進 11ページ
7. 若者から見た地域の魅力 13ページ

III. 意見の概要

1. 情報技術の進展

- (1) 日時：令和元年8月27日（火） 10時00分～12時00分
- (2) 会場：八戸ポータルミュージアム5階 レジデンスA
- (3) 参加団体：八戸商工会議所、情報・医療福祉部会、IT・テレマーケティング
未来創造協議会
- (4) 参加者数：14名（事務局及び関係課含む）
- (5) 意見要旨：

①ITによる地域振興について

- i) RPAを活用した中小企業振興や医療産業等、農業への普及
 - ・RPAなどIT化には費用がかかるが、金融機関はスケールメリットがあるので導入が進んでいる。しかし、中小企業への導入は厳しい状況である。
 - ・医療関係は医師会がレセプト作成の共有ソフトを作成して、開業医がそれぞれ活用している例がある。
 - ・個別の中小企業では導入が厳しいため、組合やグループで導入してスキルを高めることが良く、費用対効果も期待できると思う。
 - ・若い農業従事者は個別にIT化を進めているが、農機の自動運転などの農業の省力化や高価なIT関連の機器は、グループを組んで導入しなければ難しい。
 - ・農業分野ではIT化を進めながら、収穫期の人材派遣や6次産業化など、新たなビジネスの創出につながると良いと思う。
 - ・IT化を推進して、地場産業の活性化につなげていかななくてはならない。小規模でも導入が可能なIT化を目指していくことが必要であると思う。
- ii) ITを活用した観光情報の発信
 - ・他の地域の人を知っていて、八戸市民が知らない観光やグルメなどの情報もある。ネ

ットで有名なお菓子などもあり、八戸市民にもっと IT を活用してもらうための PR もしていくことが必要と思う。

- ・観光と交通は、進展する情報技術をもっと活用すべき分野であり、その利便性や魅力の向上が来街者の増加や定住者の増加につながると良いと思う。
- ・スポーツを介して八戸市を訪れる人も多くなるので、その際に交通の移動のしやすさや、おいしい食事などの魅力と利便性について、IT を活用しながらアピールできると良いと思う。
- ・三社大祭の山車の位置がわかるアプリがあり、その他の観光資源でも活用が考えられる。例えば、蕪島のウミネコの生態をアプリで紹介できれば現地で面白い体験ができると思う。
- ・八戸市の観光については、もっと IT を活用した観光に関わる情報サービスを充実すべきであると思う。

iii) 安全・安心の情報共有と生活環境での活用

- ・スマートフォンのアプリを活用し、熟練した保育士による子供の病状などに関する情報共有の事例はある。
- ・個々の住宅が太陽光発電等を導入しており、非常時の携帯電話等の充電サービスを提供する住宅がマップになっていると良いと思う。IT 化を通じて、そのような協力が得られれば、子どもたちの見守りや防犯にもつながると思う。

②IT 技術力の強化について

i) IT 専門家の市内への定着

- ・フィリピンの IT 関連の大学の卒業生を八戸市の企業で受け入れたことがあり、そのような人材の定着も必要であると思う。
- ・八戸市には、経理などの一般事務の IT 化とともに、産業ごとの IT 化のスペシャリストが必要であると思う。

ii) 各産業と IT を結びつける支援

- ・観光や起業等を含む、各産業と IT を結びつけるコーディネーターが必要であり、RPA 等を専門とするコンサルタントの育成・導入やその委託費用に関する補助などもあっても良いと思う。
- ・八戸市役所の組織に、情報技術と産業に関する専門部署があると、商工会議所や民間協議会などと連携がしやすいと思う。

③IT 教育・リテラシーの向上について

i) IT 技術者不足の解消策としての人材教育

- ・IT に関わる人材不足・技術不足が否めないため、IT 教育が必要であり、子どもから高齢者まで、どの世代でも IT 教育が受けられる環境や仕組みを用意することが必要であると思う。
- ・小学生や中学生、初心者などは行政が中心に、起業化やスキルアップなどの上級者は民間が中心に教育システムを構築することが考えられる。

2. 持続可能な市街地形成

- (1) 日 時：令和元年8月27日（火） 16時00分～18時00分
- (2) 会 場：八戸ポータルミュージアム5階 レジデンスA
- (3) 参加団体：八戸商工会議所理財部会、青森県建築士会三八支部、青森県建築士事務所
協会三八支部、中心市街地活性化協議会
- (4) 参加者数：23名（事務局及び関係課含む）
- (5) 意見要旨：

①市街地全体について

i) 持続可能な市街地形成

- ・人口減少期を迎えて、まちなかの整備に効率的に投資することは重要であり、その都市の魅力づくりに大きく寄与する。市街地全体で捉えるのではなく、効果的にまちなかの魅力を高めることが必要と考える。コンパクトな都市づくりは重要な視点であると考えている。
- ・持続可能な市街地形成は、ハード面のみならず、教育や少子化対策などのソフト面の施策も合わせて実施することが必要だと思う。
- ・空き家や低未利用地の対策は、土地の流動化を促進しなければ、大きく進まないと考えている。
- ・周辺地域からまちなかへ人を集めるのであれば、店舗や施設利用と連携した駐車場の無料サービスなどを充実させることが必要だと思う。

ii) 住環境整備

- ・八戸市民が暮らしやすいと評価している生活圏を意識して、中心市街地の整備や郊外住宅地の住環境の整備を進めてほしい。

iii) 緑化

- ・うるおいのある市街地形成は重要であり、八戸市の緑化施策は評価できる。

②郊外地域について

- ・郊外地域では、市街化調整区域への立地意向のある産業系施設などもあり、物流施設や工場等の産業系の施設が立地できるよう、用途地域や市街化調整区域の見直しも柔軟に考えても良いと思う。
- ・幹線道路の沿道など、物流施設や工場の立地ができる用途地域がもっとあった方が良いと思う。

③中心市街地について

i) 土地・建物の利活用

- ・中心市街地は、質の高い都市基盤や施設整備の進捗を受けて、今後は民間事業を促進していくことができると考える。
- ・まちなかで取り組むべき施策として、ランドバンクは良い事例である。NPOなども活用して、信用をもって土地所有者が土地を託せるような仕組みが必要だと思う。
- ・中心市街地ではマンションや既存ビルの建替え等の動きもあるが、用途地域と整合しない場合があり、実現化しないケースもある。
- ・中心市街地の路面店は良いが2～3階が活用されていない。IT関連の企業も多くなってきており、オフィスビルの需要もあるが、IT企業に見合う物件は少ない。
- ・若い人が起業したり、お店を開いたりすることができる不動産や建物を提供することが大切である。既存のオフィスビルを活用して、ケーキ屋を開店し、その後、隣接地

にレストラン、その奥の路地にバルが立地した事例があり、まちなかでは新たな展開の余地はある。

- ・既存ビルのリノベーションも有効であるが、築年数を経た建物のためコストがかかる。
- ・趣のある古いビルはリノベーションの事例があり、小中野や湊などでは、個性のある店舗も立地している。

ii) まちなか居住

- ・中心市街地の店舗の上に住みたいというニーズもある。また、商業地域の後背部の住宅地も活用できる。まちなかの居住を増やすことにもつながる。

④郊外部のまちづくりについて

- ・郊外の住宅地はそれぞれの個性を生かして住環境を充実していくことが必要であり、新たな公共としての地域コミュニティの充実も大切であるとする。例えば、ゆとりのある住宅公園都市でも良いと思う。
- ・まちなかの整備は進んでいるが、郊外の住宅地にも目を向けた整備が必要であり、郊外の住宅地の拠点づくりが必要である。まちなかと周辺市街地とのインフラ整備の差を感じている。
- ・周辺市街地それぞれの個性や特性があり、住民も満足度が高いと考えられるため、その良さを活かした市街地の整備を進めてほしい。

⑤協働のまちづくりについて

- ・民間事業はスピード感が重要であり、制限の緩和などの対応が可能であれば、民間と連携して行政もスピード感をもって対応してほしい。
- ・まちなかの拠点は、子どもたちの居場所をつくった方が良い。バーベキューなどができる広場がもっとあった方が良い。郊外の住宅地にも子どもたちが集まる場所があると良い。子ども目線のまちづくりが重要になると考える。

⑥まちづくり人材の育成について

- ・人の資産を活用すべきであり、土地活用の専門家を育成すべきであるとする。
- ・マルシェのコーディネーターを育成して、まちなかや郊外の住宅地で頻繁に開催できるようにしたい。マルシェのニーズは高く、農業や水産業の振興にもつながる。公共空間の活用も合わせて考えてほしい。

3. 地域コミュニティの振興

- (1) 日 時：令和元年9月9日（月） 10時00分～12時00分
- (2) 会 場：Y Sアリーナ（長根屋内スケート場）1階 中会議室
- (3) 参加団体：八戸市連合町内会連絡協議会
- (4) 参加者数：16名（事務局及び関係課含む）
- (5) 意見要旨：

①町内会加入の状況

- ・町内会では、転出により加入世帯が減少している。一方で、転入してきた世帯が町内会に入会しないために、加入率が下がっている。
- ・一つの住宅内での世帯分離が増えている傾向がある。2世帯でも一家族として加入することで、会費は安く済む。
- ・2世帯でも一家族で町内会に入ってもらえれば良いと思っている。
- ・敷地内に2世帯がそれぞれ住宅を建てている場合もあるが、町内会には一家族として加入してもらっている。
- ・柏崎地区については古くからの市街地と新しく整備された市街地とある。地区の加入率は40パーセント程度となっている。新築アパートには一軒一軒回って入会をお願いしている。アパートの入居者は単身者の方が多く、日中は不在なため、入会してもらえていない。
- ・企業の寮に対しては、企業に加入をお願いしている。
- ・加入率の低下は、近所付き合いが希薄になっていることも原因と考えられる。希薄な状態が改善されれば加入率は上がると思う。
- ・賃貸入居者へは、条例で、入居時に入会を強制する方法も考えられる。
- ・市では、市内2つの不動産団体と協定を結んで、不動産屋から、賃借等の契約時に町内会への入会をあっせんする取り組みを行っている。不動産団体には、前向きに対応してもらっている。

②町内会の運営

- ・役員等、町内会の担い手が高齢化している。会長のなり手がいない。
- ・老人クラブも会長の担い手がおらず解散した例がある。
- ・町内会も、自主防災組織も、他の組織でも出てくる人はだいたい同じ人だ。
- ・あいさつ運動や、見守り活動など、子供を通して、活動に参加してもらっている。子供会に力を入れて予算確保して、活動している。
- ・地域を引っ張っていく人材が必要だと思う。企業、大学や団体組織等の関係人口を増やすことが考えられる。

③地域課題の対応

i) 高齢者対策

- ・一人暮らしの高齢者は、民生員が訪問して、見守っていることが多い。
- ・一人暮らしの高齢者をどのように見守っていくのか課題となる。町内にもよるが、昔からの住宅地であれば、近所の人が見守りや、気遣っているところもある。

ii) 安全・安心のまちづくり

- ・子供のあいさつ運動の時には、不審な人を見かけたら声をかけるようにしている。徘徊老人探しなどにも役立っている。しかしながら、声をかけた相手が、本当の不審者であった際の不安はある。

- ・防災訓練は、命に関わることであるため、町内会加入の有無にかかわらず参加してもらう必要がある。

iii) まちの活性化

- ・三八城地区については夜間人口が少ないため、夜のイベント活動などを開催している。大学のデザイン・美術学科の先生と連携し、大学のサテライトをつくってもらう予定になっている。

④今後の町内会のあり方

i) 町内会活動の変革

- ・時代も人も変わってきており、今の時代に合った町内会のあり方、活動のあり方があると思う。
- ・町内会だけでは立ち行かない課題もあり、地域活動に取り組む団体などと、情報共有や、協働して活動することが必要だと思う。

ii) 町内会活動の継承

- ・町内会の青年会をつくり、お祭りなど、若い人に積極的に活動してもらっている。
- ・若手の具体的な活動の場を通じて、世代交代できれば良いと思う。

⑤地域のまちづくりのあり方

i) 地域コミュニティの中心の場

- ・公民館活動が活発であり、公民館が、地域コミュニティの中心となっている。
- ・これから公民館の役割が増すものと考えられる。館長を、市役所職員にするなど、公民館改革が必要だと思う。
- ・公民館には、駐車場も少なく手狭な施設がある。地域コミュニティの拠点として、もっと集まりやすくするべきではないか。

ii) コンパクトなまちづくり

- ・コンパクトシティという考え方には、基本的に賛成であるが、中心街に出てこなくても、地域で物事を済ませることができれば一番よいのではないかと思う。
- ・公共交通を使えと言われるが、本数が少ない。免許証を返納し、移動手段がなければ生活していくことはできない。コミュニティバスなど、公共交通のあり方を考えていく必要がある。

4. スポーツによる活性化

- (1) 日 時：令和元年9月10日（火） 10時00分～12時00分
- (2) 会 場：八戸商工会館6階 会議室B
- (3) 参加団体：八戸スポーツ振興協議会、八戸市サッカー協会、青森県スケート連盟、あ
おもりアスリートネットワーク、八戸商工会議所事務局
- (4) 参加者数：12名（事務局及び関係課含む）
- (5) 意見要旨：

①スポーツへの市民意識と活性化

- ・これまで、「お金を払ってスポーツを観戦する」という意識は市民には無かったように思う。最近では、地元プロスポーツチームの試合を、お金を払って観戦し、スポーツを楽しむという意識になってきている。
- ・試合の勝ち負け以外の付加価値が得られる、良かった、楽しかったと記憶されるような機会が多くなってきていると思う。
- ・子供のうちからスポーツに親しんでもらうことが必要で、スポーツと触れ合うための仕組みが必要となる。
- ・子供にスポーツの楽しさを伝え、親御さんも興味をもってもらおう。そのためには、スポーツを体験させ、競技の枠を超えた交流ができる仕組みが必要だと思う。

②競技施設

- ・多賀多目的運動場のサッカー競技場はJ3基準を満たすための照明施設がない。ナイターの試合受け入れ要請があっても対応できない。
- ・サッカーに限らず、いつでも、何かイベントをやっているという状況をつくりだすことが、スポーツ・ツーリズムなどを考える上で重要になってくる。このような点からも、照明施設があった方が良い。
- ・長根屋内スケート場（YSアリーナ）は赤字といわれているが、まちづくり全体への投資だと考えるべきだ。施設だけの収支を見ても意味がない。施設利用を通じて、まち全体に、どのような効果があったか検証することが重要だと思う。
- ・長根屋内スケート場は、スケート利用以外に、フットサルなど普段使いできることを、知ってもらう必要があると思う。
- ・スポーツができる場を提供することが大事だと思う。屋内スケート場の利点は屋外と異なり天候に左右されにくい。
- ・ドイツでは、健康まちづくりで医療費が少なくなった。競技施設は赤字でもその効果により、全体で良い方向に行けばと思う。

③スポーツ観戦と観光

- ・サッカー・アイスホッケー・バスケットボールの観客数が頭打ちの状況にある。いかに観客数を増やすか、観戦することに、どのような付加価値を見出すか工夫が必要だと思う。
- ・特にサッカーについては、これまでJリーグ昇格自体が目標であった。昇格を果たし、新しい活動のステージに入ってきていると思う。これからは、地域への定着を図り、スポーツと市民を結び付け、競技人口や観戦動員数、サポーターを増やす取り組みが必要になる。
- ・スポーツ観戦に来た県外からのお客さんに、中心街の飲食店でお金を落としてもらえ
るような仕組みを考えてもよい。

- ・スポーツ自体で儲けるのではなく、それを梃にどう稼ぐか。様々な取り組みへと波及させさせることで、儲かるスポーツになれば良いと思う。
- ・相手チームのサポーターも観光客なので経済効果が見込め、アウェイのサポーターへの特典や、おもてなしが必要だと思う。
- ・八戸市は特徴があるスポーツチームがあり、スポーツ観戦が一年を通して楽しめる環境にあることが、広く知られていない。
- ・個別チームによるPR活動を行っているが、地元チーム同士で連携してPRすることが考えられる。
- ・三社大祭へ協賛しているチームがある。お祭りとあわせて、イベントを行うことで、思い出づくりになると思う。

④スポーツとまちづくり

- ・人口減少のなかで、人口を維持するために、スポーツを活かすことが重要ではないか。スポーツを通じて、八戸で暮らす豊かさを感じられるようになると良い。
- ・スポーツを「したくなる・見たくなる・ささえたくなる」まちづくりを重点に取組んでいくことが必要だ。
- ・まちに、プロスポーツがあり、身近に一流の選手を目にすることで、選手を目指す子供たちが増えることが理想的だと思う。
- ・まちなかから近い屋内スケート場は珍しい。人を呼び込む合宿だったり、ツアーを組んだりすると良いと思う。苫小牧市では合宿誘致に補助金を出している例がある。

⑤スポーツコミッション

- ・スポーツコミッションは組織をつくることが目的ではない。チーム間の交流を促進する、機能や仕組みとして考えることが重要だと思う。
- ・プロスポーツチーム3チームによる交流会は開催しているが、知らない市民が多い。情報発信に力を入れなければならない。
- ・各チームを横断した情報発信を一元的にできる仕組みが必要だと思う。例えば、いつどこで、どのチームが試合をするのか、一目で確認できるホームページがあると良い。
- ・多くの人がアクセスするホームページには、広告を掲載する企業はいる。見てもらえるホームページをつくることで、宣伝効果があると分かれば、スポンサー企業も増えると思う。
- ・プロスポーツチームに加えて実業団チームとの交流の場を設けることが考えられる。市でサポートしてくれると良いと思う。

5. 国際化への対応

- (1) 日 時：令和元年9月10日（火） 13時30分～15時30分
- (2) 会 場：八戸商工会館6階 会議室B
- (3) 参加団体：みちのく国際日本語教育センター、北日本造船株式会社、北造協同組合、
江陽町内連合会
- (4) 参加者数：12名（事務局及び関係課含む）
- (5) 意見要旨：

①言語に関する課題等

i) みちのく国際日本語教育センターでの対応

- ・八戸市には日本語学校が無いので、みちのく国際日本語教育センターのみが日本語教育の受け皿を担っている状況にある。現在3クラスあり講座を増やす予定となっているが、対応が十分とは言えない。
- ・外国人による技能実習者は、単身での来日となる。しかし、来年から、特定技能者の家族帯同が可能になれば、さらに対応する量は多くなるだろう。
- ・翻訳・通訳で多くの時間が割かれており、企業での座学にも対応している。
- ・ポルトガル語のサポートが課題となっている。支援者が不足している。
- ・日本語講師は、外国語が話せる必要はないが、講師になるには、養成講座の受講や、技能検定に合格する必要がある。
- ・日本語教育に関する児童支援については、学校と連携を取っておこなっている。

ii) 企業側の日本語教育への対応

- ・みちのく国際日本語教育センターに依頼して、講習を実施してもらっている。（北日本造船の場合）
- ・個人企業など、企業側で教育環境を整えることが難しい場合がある。

②外国人受け入れに関する地域での課題

i) 地域コミュニティ

- ・江陽地区での外国人との交流は、地元の運動会に、北日本造船の方々が参加したことが始まりだ。行事を通して、地域になじんでもらっている。
- ・外国人を受け入れている企業と、町内会との情報交換ができています。企業を通して、地域に入ってきてもらっている。
- ・情報交換を行っている企業であれば良いが、個別に受け入れているような企業だと、町内会で把握していない外国人もいる。
- ・町内会で把握していない外国人は、困ったときにどこに相談して良いかわからないと思う。分かりやすいように自宅に、気軽に相談に来てほしいと書いて、大きく垂れ幕をつけようかと思っている。
- ・外国人が地域にアクセスできるようにするための、企業で共通の窓口があれば良いと思う。
- ・会社で受け入れている外国人が、近隣とのトラブルになることがある。外国人に悪気があるわけではなく、日本の習慣を知らないだけだ。分かりやすいマナーブックなどがあると良いのではないか。

ii) 就学環境

- ・市内のある小学校では、ブラジル人の子供が入学し、先生がパニックになっていると聞いた。外国人は義務教育の対象ではないが、入学を希望する場合は学校側としては、受け入れなければならない。

- ・これからは外国人が働く国を選ぶ時代。人口減少を迎え、日本が選ばれる国になる必要がある。外国の子供たちが将来の八戸を担う人材となるかもしれないで、しっかりとした教育を受ける必要があると考える。

iii) 医療環境

- ・病院で診療を受ける際、言葉の問題がある。いくつかの病院では、中国語など話せる医師がいるが、このような情報が共有されていない。外国語対応の病院についてもっと情報があれば良いと思う。
- ・『びょういんちゃんねる』のホームページはわかりやすく、市内の病院を網羅している。これを多言語に対応できるようにすると良いと思う。

③外国人の暮らせるまちづくり

i) サポート体制・取り組み

- ・外国人が必要とする情報をとりまとめ、提供する、情報バンクや、法律相談ができる場所があると良い。青森県は、青森市に県のワンストップ窓口をつくるという。外国人増加の状況からみて、八戸市に設置した方が良いと思う。
- ・日本語教室、日本語教育のバックアップ、せめて外国語に詳しい人材バンクのようなものがあると良い。
- ・八戸市にきた外国人や、市内に暮らす外国人専用のポータルサイトがあると良いと思う。
- ・同時通訳機器（ポケットーク）の導入補助はどうか。やさしい日本語の本ができると思う。

ii) 住まい（不動産）

- ・実習生の住まいを、会社であっせんしている。（北日本造船の場合）
- ・住居の手当ては会社によって異なる。
- ・居住できる住宅には一定の基準がある。住まいをあっせんする仕組みの無い会社では、住まい探しに困ることがあるだろう。
- ・外国人を受け入れる賃貸物件はあまりない。

iii) レクリエーション

- ・レクリエーションを楽しめる場所がほしい。
- ・休日や終業後に体育館が利用できると良い。公共施設利用方法などを、外国人に分かりやすく教えてほしい。
- ・学校開放などで体育館が利用できるかもしれない。
- ・釣りが好きな外国人が、禁止区域に入り警察のお世話になることがあった。

6. 女性活躍の推進

- (1) 日 時：令和元年9月12日（木） 18時30分～20時00分
- (2) 会 場：八戸市庁別館2階 会議室C
- (3) 参加団体：女性チャレンジ講座受講生OG会、八戸サバ嬢、八戸商工会議所女性会、
青森県社会保険労務士会八戸支部
- (4) 参加者数：17名（事務局及び関係課含む）
- (5) 意見要旨：

①女性の就業状況

- ・八戸市の企業では、女性の管理職の登用は少ない。また、出産・育休後の受け入れの体制もあまり整っていない。中小企業では人手不足がその要因にある。
- ・企業側も週3日のシフトを変えた就業（月・水・金と火・木・土など）体制を導入するなど、受け入れやすい柔軟な対応を導入し、より多くの女性が働きやすいようにしていくことが必要だと思う。
- ・女性社員が中心の企業では、お互いの理解や経験のもと、出産・育休時のフォローやその後の時間を決めての就業など、女性社員の意見を聞きながら、柔軟に対応できている企業もある。
- ・八戸市の多くの企業が人手不足のため、出産・育児での時間制約がネックになっていると考える。業種にもよるが、社会福祉や医療・介護などに係る比較的女性が多い企業では、シフトの工夫などの柔軟な対応ができているところもある。
- ・しかし、多くの企業では出産・育児等をサポートする対応が難しく、そのためリーダーを目指す女性も多くないのではないかと考えられる。

②女性中心のグループの活動状況

i) 主な活動内容

- ・女性を中心に結成した「サバ嬢」は、現在結成して1年であるが、町歩きやグルメツアー等の地域の活性化や魅力の発信に資する活動を展開している。
- ・大間の女性中心のグループである「マグ女」などとの連携や協力が進んでいる。
- ・女性を中心とする特徴を生かして、楽しく、無理のない活動を進めている。

ii) 活動するうえでの課題

- ・仕事をしながらプライベートで活動しているため忙しく、若い女性を引き込み一緒にチャレンジすることや、連携できることがあればよい。
- ・ネットワークの場所があると良いのかとも思う。横の繋がりが出来ると良いのかと思う。

iii) 今後の展開

- ・今後はSNSを活用した情報発信などを進める予定だが、地域の活性化や魅力発信の活動を進めていくためには、周辺市町村の他の女性グループとの連携とともに、行政との連携が必要だと思う。
- ・八戸のことしか知らなかったが、子供たちにとって戻ってきたいと思う場所にし、ゆくゆくはこの地域を良いものだと思ってもらえるようにしたい。

③女性のスキルアップの状況

- ・女性チャレンジ講座は、女性のスキルアップには重要であり、職場での女性の良さを活かした交渉力のアップなどの効果があった。また、他分野の女性や意欲の高い女性の方々とのネットワークができていることも良いことであり、その後の交流やお互

いの情報交換・相談なども行っている。

- ・交渉力の講座を受け、対応の仕方、言葉の使い方など具体的対応などを習い、仕事での実践に生かせたので自信が付き、世界が広がった。仲間にもそのような人が増えたこと、同じ体験を皆さんにもしてもらいたい。

④女性の就業環境

- ・大きな背景は人手不足にあり、経営者の大多数は 10 年後どうやって仕事をすればいいのか、女性の労働力の掘り起こしが必要であるが、結婚・育児がネックになっている。
- ・女性が働く環境は以前より改善されており、労働環境面では就労時間が 22 時までになり、男女雇用機会均等法により男女区別なく募集されるようになった。
- ・育児休業は最長 2 年までとなり、給付金も手厚く、さらには厚生年金等の免除など、環境が出来上がっている。
- ・しかし、男性の育児休業が進んでおらず、また社会全体における男女の地位の平等感の統計を見るとまだまだなのだと思う。
- ・社会福祉法人などでは、女性が活躍できる環境が整っているが女性の管理職はいない。八戸市では女性の役員がいるところはまだまだ少ない。
- ・人手不足の建設業や土木関連でも女性の働き手を探しており、そのような職種では一定割合の女性社員がいることが、入札時のインセンティブになることが要因になっている場合がある。
- ・女性が起業する場合でも、「はちサポ（はちのへ創業・事業承継サポートセンター）」が創業まで細かなサポートを行っており、企業 PR やイベント支援、空き店舗の活用支援なども含めた対応を行っている。女性が活躍する事例を多く発信していくことも必要である。

⑤女性活躍のために必要なこと

i) 交流・連携の必要性

- ・女性の活躍には、他分野の女性やグループなどとの交流の機会を多く持つことも新しい情報の収集やモチベーションを高めるために大切ではないかと考える。
- ・女性チャレンジ講座などでスキルアップした女性や地域の活動を担っている女性グループなどが連携できる仕組みや、女性やグループを企業と結び付ける仕組みも必要だと思う。

ii) 多様性のある働き方

- ・働きたいが子供を預けられない状況にあり、ライフサイクルやライフステージに応じた多様性のある働き方を取り入れてほしい。例として不動産業などでは、月水金のみ働くスタイルがあり、経営者・従業者が相互に納得して対応しているようで、経営者側の意識の変革が必要なのかもしれない。

iii) 女性活躍への支援

- ・女性チャレンジ講座などの充実やその後の交流の推進、サバ嬢などの女性グループの発足やその後の活動支援、企業側の柔軟な女性社員の受け入れ体制と管理職となる意識がある女性の積極的な登用、就業を求める女性や連携を求める女性グループと企業を結び付ける仕組みの構築などが必要と考えられる。
- ・女性目線の特徴やスキルの活用に企業ももっと目を向けるべきであり、企業側の意識改革を進めていくことが必要であり、そのような企業と働き手である女性とのマッチングが大切であると考えられる。

7. 若者から見た地域の魅力

- (1) 日 時：令和元年10月3日(木) 18時00分～20時00分
- (2) 会 場：YSアリーナ(長根屋内スケート場) 1階 中会議室
- (3) 参加団体：八戸工業大学 5名、八戸学院大学 5名、八戸学院大学短期大学部 2名、
八戸工業高等専門学校 5名
- (4) 参加者数：23名(事務局及び関係課含む)
- (5) 意見要旨：

◎次の2部構成で、ワークショップ形式で実施

第1部 八戸市の良い点、悪い点 について

第2部 20年後の八戸市の姿(未来の新聞記事として取りまとめていただいた)

<第1部 八戸市の良い点、悪い点 について>

～良い点～

①祭りやイベントなどについて

- ・“はっち”や八戸ブックセンター、マチニワといった、個性的な施設が多い。
- ・三社大祭や八戸えんぶりなどの祭りや、イベントが沢山ある。
- ・七夕祭や三社大祭などの時には、まちがにぎやかになって、とても楽しい。
- ・祭り際には、市民の結束力が強まる。
- ・大規模な朝市があることは魅力になっている。

②ウィンタースポーツ・レジャーについて

- ・スケート、スノーボードなどのウィンタースポーツが楽しめるところが良い。
- ・冬場にレジャーとして、スポーツを楽しめる。
- ・ヴァンラーレ八戸や、青森フリースタイルズといったプロのクラブチームが身近にある。

③地域産業や働く場について

- ・地元企業が活発に活動していると思う。
- ・工業系の就職先は多くあると思う。製造業や加工品の会社が多い。
- ・イカやサバなどの有名な海産物が採れ、水産資源が豊富だと思う。
- ・地方都市の中では、学生が多い方ではないか。
- ・飲み屋さんや、カラオケが多いのではないか。これも八戸の産業の特徴になっているのではないか。

④食文化や特産品について

- ・地酒、地サイダーがある。
- ・イカやサバなど、海産物がおいしい。
- ・食べるとおいしくて、ほっこりとする郷土料理がある。
- ・お酒も、お水も美味しい。美味しいものが多いところが魅力ではないか。

⑤八戸市での暮らしについて

- ・人柄の優しい人が多いことは、地域の魅力だと思う。地域で交流する機会も多い。
- ・冬にあまり雪が降らず、また、夏は、暑くなりすぎずに、過ごしやすい。
- ・基本的に、八戸市は住みやすいまちだと思う。

～悪い点～

①まちの魅力について

- ・ 中心市街地では商業施設が少なく、遊ぶところも少ない。
- ・ 八戸駅周辺の目玉になる施設があまりない。遊べる場所や暇をつぶせる場所がない。
- ・ 八戸駅と中心市街地が離れてしまっていて、魅力が分散してしまっているのではないか。
- ・ タピオカの店など、全国で有名（トレンド）なものが、八戸に入ってくるまでに時間がかかる。
- ・ ショッピングモールが点在していて、魅力がない。娯楽のバリエーションが少なく、1年も住めば、飽きてしまう。
- ・ 大学の周辺に、飲食店が数、種類ともに少ない。
- ・ 公会堂付近に若者が集まる場所が少なく、ライブなどがあったときなど、時間をつぶせずに不便。
- ・ 八食センターや蕪島などの観光地が点在していて、回遊しづらいのではないか。
- ・ 三社大祭など、地域を代表する祭りや自然資源について、情報発信する力が足りないのではないか。

③若者の地元離れについて

- ・ 就職や進学で地元を離れてしまう友達が多い。
- ・ 青森県は全国でも賃金が低いと聞いた。低賃金が地元を離れてしまう原因になっているのではないか。

④道路・交通環境について

- ・ 自動車がないと移動ができず、買い物などがしづらい。
- ・ 中心市街地以外の公共交通の便が悪い。
- ・ バスの便が全然ない場所や、少ない場所が多い。また、終バスの時間も早い。
- ・ 便数が少ないので、バスに乗り遅れてしまうと、学校に行けなくなってしまう。
- ・ 交通系 IC カードが未対応。バスや電車が現金払いで不便だ。
- ・ JR 八戸線の本数が少ない。駅からのバスの連絡もなく不便だ。
- ・ 観光地への公共交通の便が悪いのではないか。
- ・ 道路工事の時間が長く、汚い場所をよく見かける。舗装がつぎはぎだらけで、ガタガタしている箇所が多い。
- ・ 中心市街地などは、一方通行が多く、運転しづらい。
- ・ 高専周辺は丘陵部で、坂が多くて自転車が使いづらい。

<第2部 20年後の八戸市の姿 について>

～記事の概要～

- ・ 20年後の八戸市の将来を展望していただき、食文化や芸能・スポーツをはじめ、暮らしに係る事柄など、多岐にわたる内容を「未来新聞」の記事として、まとめていただいた。
- ・ 本市の資源を活かしたブランド品開発や、観光ルート開発などの具体的な提案がされ、参加者の地域への愛情や誇りを感じさせる内容となっている。また、YSアリーナについての記事もあり、施設利用への関心の高さがうかがえる。施設での全国さらには世界規模のイベントの開催を展望する記事がみられ、まちのにぎわいや活力づくりへのニーズがあることがうかがえる。
- ・ 暮らしにかかわる事柄では、賃金アップの記事がみられ、将来を展望するうえでの関

心ごとの一つであることがうかがえる。公共交通への IC カードの導入や、利便性の向上にかかわる具体的な提案がされており、自動車がまだ自由に運転できない世代ならではのニーズと考えられる。

※以下に記事の内容を掲載する。

～食文化・地場産品～

八戸ラーメン ラーメングランプリ受賞

- ・八戸ラーメンがラーメングランプリで日本一になりました！

新!!地酒「八幡馬」登場。

- ・八仙、八鶴、菊駒につづく新地酒「八幡馬」が発売された。青森県内稀にみる甘口の地酒である。
- ・甘味が多くお酒入門には丁度良い。
- ・ぜひお試しあれ!!

三島サイダー、待望の「ペットボトル化」

- ・90年以上八戸市民に親しまれてきた三島サイダーが、ついにペットボトルによる販売に乗り出した。
- 観光客に大人気の三島サイダーでしたが、若者からは「瓶は飲みづらい」「栓抜き使うのはなー」といった声を受けての決定だった。
- ・従来のように瓶での販売も継続し、ペットボトルをコンビニやスーパーマーケットでの販売を始めることで、新たに若年層への市場拡大を目指す。
- ・若者からお年寄りまで幅広い支持を受ける三島サイダー90年の歴史を塗り変える新たな一歩を踏み出した。

～観光交流～

八戸水族館オープン!!

- ・旧マリエント八戸市水産科学館の改修工事が終了し、新たに八戸水族館がオープンしました。
- ・国内初の鮫と触れ合えるショーなど、新感覚のシーパラダイスとなっています。

館鼻花火全国一位！

- ・秋田の大曲を超える規模で開催

三社大祭の観客数が青森ねぶたを上回る！！

～ねぶたが 300 万人に対し、三社大祭に 600 万人来る！～

夏限定!! 館花朝市～八戸三社大祭ツアー開始!!

- ・203×年（令和〇年）に、夏の三社大祭の時期にのみ行われるツアーが開催される。
- ・これは、八戸市の観光バスを1日貸し切りの状態で使用するため、定員が決められている。1日
- ・2,000円で朝市から中心街まで行くというものになっており、主に観光客を狙いにしたツアーになっている。
- ・人数次第では、ゆっくりツアーを楽しむこともできるため、観光客の増加も見込める。

駅前“Loft”オープン!!～八戸駅周辺の見所増加へ～

- ・他県や海外からの観光客だけでなく、地元の人からも利用してもらうことを目的に、八戸駅前にLoftがオープンした。
- ・既にあるユートリーで八戸ならではの特産品も揃うため、より一層ショッピングがに

ぎわうことだろう。

- ・遠方からの観光客 UP!おみやげ産業 UP! ホテル業 UP! 交通 UP! その他商業施設の売上 UP!

～スポーツ・文化～

演劇の街八戸復活!!!

- ・今年の冬は八戸の演劇が熱い。
 - ・八戸が産み育てた大女優と、東京で活躍する人気劇団がコラボレーション。はっち、マチニワがある中心街は八戸市民だけでなく全国から集まった演劇ファンにより大きな賑わいを見せる。
 - ・一時衰退を見せた八戸演劇界に新たな風が吹き込まれ、街全体が劇場と化した。
 - ・路地裏、スナック跡地、駐車場…ありとあらゆる空間が芝居に溢れる。演劇の街八戸の幕が今、上がった。

有名アーティストのツアー日程にYSアリーナ!!!!

- ・嵐の最後のコンサート YSアリーナで！！

アイススケート全国大会開催

- ・YSアリーナでアイススケートの全国大会が開催されました。
 - ・羽生結弦選手や宇野昌磨選手らが出場しました。

冬季八戸オリンピック

- ・長野オリンピック以来の日本開催！！

ヴァンラーレ八戸 J1 優勝！

ヴァンラーレ八戸快挙 J1 昇格！

- ・八戸市のプロサッカーリーグに加盟しているヴァンラーレ八戸 FC が今年念願の J1 昇格を果たした。
 - ・監督・選手らは更に高みを目指し、J1 優勝に向け日々鍛錬している。

～雇用（賃金）～

求人

- ・近年の八戸市人口増加により、求人を募集する企業が市内全域で増加中！
 - ・いずれの企業も時給は¥1,500~としているが未だ人手が足りない状況…。

時給日本一の市 八戸

- ・ついに東京の賃金を超えました！！

時給 10000 円 UP! ?

- ・最低賃金が 10770 円になり全国 1 位に！

～交通環境～

八戸交通の便 Suica 導入！

- ・令和〇×年から青い森鉄道、八戸線、市営バス南部バスでの Suica の実践的な導入により使用が開始された。これにより、切符を買う手間が省け、イベント時での混雑、切符を買うための行列が無くなり、利用者の増加が見込まれる。

八戸市営バス本数増量

- ・地方では約 1 時間に 1 本しかバスが通らなかった。
 - ・それを改善するべく、バスの本数を増やすことにした。
 - ・本数を増やすことで

学生利用者が便利になる、地方からでも気軽に出かけられる という利点がある。

八戸の学生へ無料バス開通

- ・学生証を見せれば賃金（運賃）が無料になると発表しました

～教育～

新・総合大学！！

- ・八戸で幅広く学ぶ

新学校 来春 OPEN – 八戸駅近くにサテライト学園 –

- ・八戸の玄関口、八戸駅の近くに八戸高専・八戸学院大学・八戸学院短期大学・八戸工業大学が協力し、サテライト学園が来春開校予定。
- ・学園では市内の学生のほか、社会人も学べるよう、夜間も開校する。

<取りまとめでいただいた未来新聞>

令和30年8月2日
デーリーハブ

ハブラーメン
ラーメンが読者賞
(ハブラーメンが
ラーメンが読者賞
に選ばれました!)

*嵐*の最後の
コンサート*
* YSアリーナで!!

館鼻花火 全国一位!
秋田の大曲を越える規模

ヴァンラーハブJ1優勝!

新・総合大学!!
ハブで幅なく学ぶ

時給日本一の市、ハブ
ついに東京の真価をこえました!!

ハブの学生へ無料バス開通
~学生証を見せれば貸金が
無料に変わる発表しました~

三社大祭の観客数が
有森おふたを上回る!!
~おふたが300万人に対し
三社大祭に600万人来る!~

hachinohe
にろうす
ペーぱー

中心街が一車線に!?
道が狭い
歩道
中心街一車線
道が狭い!!

冬季ハブオリンピック
長野オリにセック
以来の日本開催!!

田面木の坂に
エスカレーター導入~
ついに高層生の長年の夢
が実現!!

時給10000円UP!!
最低賃金が10770円になり
全国1位に!

三社大祭が国宝に
2000年
三社大祭が
2000年
三社大祭が
2000年

有名アーティストのツアー日程
はYSアリーナ!!!!
遠方からの観光客UP! お土産業UP!
ホテル業UP! 交通UP!
その他商業施設。売上UP! 知名度UP!

ハブ駅前
第二の中心街!!!!
多方面へのバス路線の開設の発表!!
駅前商業施設の増設も目覚ましい!!
編集後記
毎日本報の発行と冬季オリンピックの開催が、ハブがより発展の歩み、時給UPだけでなく若者の増加、ハブが発展していきたくらう...

おんげやんせ新聞

令和0X年△月△日

新!!地酒
八幡馬 登場。
八幡、八馬、同様に続く、
新地酒「八幡馬」が発表された。
有森酒内 橋にみる日口の地酒
である。
お味も香く
お酒入門は
丁度よい。
ぜひ
お試しあれ!!

演劇の街ハブ
復活!!!
今年からはハブ演劇が中心。
ハブ演劇の復活は、ハブ演劇の
人気劇団の復活に伴い、ハブ演劇が
復活した。ハブ演劇の復活は、ハブ演劇の
復活に伴い、ハブ演劇が復活した。
ハブ演劇の復活は、ハブ演劇の
復活に伴い、ハブ演劇が復活した。

ハブ交通の便
Suica導入!
令和0X年度は、春・夏・秋・冬、ハブ線、市電、市バス
乗り放題のSuicaを導入し、利用が便利に
なった。これにより、通勤をより便利にする。ハブ線での
乗車、切符をより便利にする。利用者の増加
が見込まれる。

駅前Loft オープン
~ハブ駅周辺の見所増大~
他県や海外からの観光客も
少なく、地元の人々も利用し
てもらうことと目的に、ハブ駅前
にLoftがオープンした。
駅にあるエートレットでハブな
味の惣菜や、お土産、お菓子、
お弁当が楽しめる。

アイススケート
全国大会開催
YSアリーナでアイススケートの
全国大会が開催されました。
3月には、アイススケート選手権
大会が開催されました。

三島サイダー、待望の
「ペットボトル化」
三島サイダーは、長年、紙パック
で販売されてきたが、ペットボ
トル化が実現した。これにより、
持ち運びが便利になり、消費
も増えることが予想される。

ハブ市営バス
本数増量
地元では朝7時から夕方まで運行する、ハブ市営バスは、
本数を増やした。これにより、通勤
が便利になり、利用者の増加が
見込まれる。

夕日新聞

復限定!! 館内紙市~ハブ三社大祭
UP開始!!
2024年(令和06年)は、夏の三社大祭の
時期に、館内紙市がスタートする。これ
により、ハブの観光客も、三社大祭の
時期に、館内紙市がスタートする。これ
により、ハブの観光客も、三社大祭の
時期に、館内紙市がスタートする。

ヴァンラーハブ快
挙
J1昇格!
ハブ市のプロサッカーチームに加盟している
ヴァンラーハブFCが、今年優勝のJ1昇格を
果たした。監督選任は、更に高層を目指す。J1
優勝に向け、鍛錬している。

ハブ水族館オープン!!
旧マリエントハブ市水産科学館の
改修工事が完了し、新たに
ハブ水族館がオープンしました。
国内初の「魚」に触れ合えるコーナー
など、新感覚のシブライズと
なっています。

新学校 OPEN
~ハブ駅近くにサテライト学園~
ハブの玄関口、ハブ駅の近くにハブ専
門学院大学、ハブ学院短期大学、ハブ工業大
学が協力し、サテライト学園が新設予定。
学園では市内の学生のほか、社会人も
受け入れる。

求人
近年のハブ市人口増加に
より、求人募集する企業
が市内全域で増加中!
いづれの企業も人材は
不足している状況!!
人手が足りない状況!!

